

# 令和3年度 人権教育研究指定校事業における事業内容

学校名[西川町立西川小学校]

## 【研究の要約】

本校では、コミュニティースクールの指定を受け、地域と共にある学校を推進している。西川らしい教育として、保・小・中一貫教育、自然体験学習、外国人との交流など特色ある教育を行っている。そのような活動をとおして、自他の生命を大切にし、誰とでも仲よくしようとする態度を育てたいと考え、調査テーマを「児童生徒や保育園児、高齢者、地域並び他国に生きる人々とのかかわりを通じた人権教育の推進」を調査研究テーマとして設定した。

併せて昨今の課題であるインターネットやオンラインゲーム等を含めた「いじめ」について考えさせ、自他の違いを認め、思いやりの心で友だちに接していこうとする気持ちを育てていきたい。

## 1. 事業の内容（具体的実践事例）

- (1) 「ふるさと楽行」「読み語り」「だんご木集会」「ケアハイツとの交流」を通して、高齢者と接し年齢を重ねることを知り、尊敬の念と思いやりの心を育んだ。
- (2) 「里山インターナショナル」「台湾南湖小学校」との交流を行い、異文化を知ることで外国人についての理解を深めた。
- (3) 5・6年生を対象に「e-ネットキャラバン」によるネットトラブルについての学習会、PTA研修会でも保護者向け「ネットモラル」について研修を行い、ネットトラブルの怖さとネットモラルについて理解を図った。児童会・生徒会が合同で「西川町インターネットのきまり」を作成したり、保護者向け「家庭教育のすすめ」にメディアについて掲載したりして啓発した。
- (4) 5・6年対象の産婦人科医による「心と身体の学習」を実施した。一人一人の成長や体の違い、心の変化について学んだ。一人一人を大切にするとともに多様性を認めることの大切さを学んだ。

## 2. 研究成果（○）と課題（●）

- 児童アンケートでは、「学校が楽しい」と答えた児童が約90%おり、昨年度より増えている。また、いじめの認知件数も後期になって減ってきている。
- ICT 機器の導入時にタブレット使用ルールについて学級指導を行った。その中に、インターネットにより人権侵害等の内容も含まれており、インターネットの怖さも学習した。さらに、外部講師により保護者向け研修会や高学年向けのネットモラル研修会を行うことができた。大きなトラブルもなく ICT 機器を活用できている。
- 地域学校協働活動で、高齢者、外国の方々、地域の方々と交流を行った。交流を通して、相手のことを理解し接することの大切さを学ぶことができた。
- 取り組んできたことをしっかり実践できるように継続して指導をしていかなければならない。そのために、人権教育の見直しも行っていく必要がある。
- 人権問題である「アイヌの人々」「同和問題」「拉致問題」については取り上げることが難しかった。資料等を活用し、これからも取り組んでいきたい。

<参考資料>

① 地域（高齢者）とのかかわり

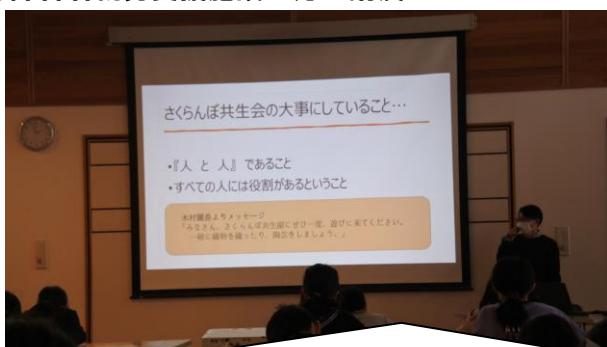


何も見ないで語ってくれる高齢者の姿にびっくりしていました。高齢者のすごさを感じることができました。



小中合同で集めたアルミ缶で高齢者施設に車椅子を贈呈しました。

② 障害者就労支援施設の方の講演



【児童の感想より】

- ・たとえ障害があったとしてもみんな同じ人間なんだから差別などしないで一緒に遊んだりしていきたいなと思いました。
- ・自分と見た目や考え方が違う人がいても差別せず、他の人のことも考えて行動するようにしようと思いました。

就労施設では、「人と人であること」、「すべての人には役割があるということ」を大切にしており、障害がある、なしには関係ないかかわりをしていることを聞き、考えさせられました。

③ 小中合同あいさつ運動



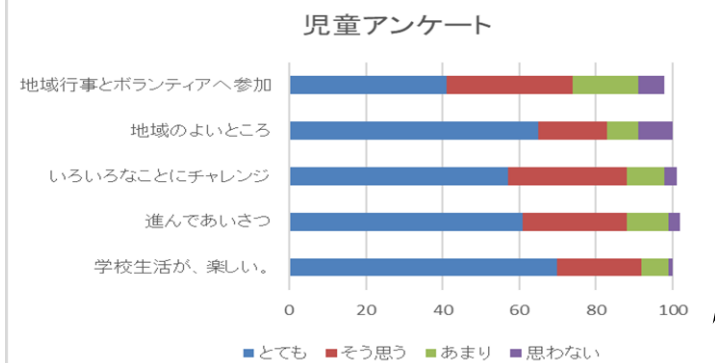
西川中学校とあいさつ運動アルミ缶回収、メディアの取組みなどを合同で行いました。

④ 外国の方々との交流



アフリカ、中国、カナダいろいろな国の方々と交流しました。文化の違いを感じました。

⑤ 児童アンケートの結果より



学校生活が楽しいと思っている児童が約90%おり、欠席も少ない。また、地域のよさに気づいたり地域の行事に参加したりする児童も増えた。人権教育を推進することで、人とかかわり方を学んだり、地域や人のよさに目を向けられるようになってきたりしている。

# 令和3年度 人権教育研究指定校事業における事業内容

学校名[ 西川町立西川中学校 ]

## 【研究の要約】

本校は、町内一つの中学校であり、小学校も一つの小学校である。平成24年以来、西川町教育センターの取り組みを通して、小中の教員の連携を深めてきた。さらに、平成28年度より、コミュニティスクールとして、保育園との連携さらに広範な地域の力を活用した「西川学園」として、保小中一貫教育を推進している。

西川学園構想を踏まえ、児童・生徒の交流、保育園、高齢者施設との交流、地域を支える方々との関わりの中で、人権意識を高め、より良い社会を創ろうとする社会力の育成を図り、人口減少が続く地域社会を支える「マンパワー」を育成するため、テーマを設定し研究を行っていく。

## 1. 事業の内容（具体的実践事例）

- (1) いのちの教育・性教育講話 中学校三年生を対象に、井上聡子医師を招いての講演会を開催した。15歳の責任ある人間として求められる「性による違い」、「生命尊重の重要性」等を学習した。
- (2) 夏季休業前に、「親子人権研修」として、臨床心理士の伊藤洋子先生を招いて、保護者及び全校生徒を対象にした研修会を実施した。コロナウイルス感染対策のため、ZOOMを活用し、会場を分散し、実施した。
- (3) 人権擁護委員の方を4名招いて、人権講話をお聞きし、その後、校庭南側の花壇を活用しての植栽を実施した。一本一本手で植えることを通して、万物に宿る生命について学ぶことができた。

## 2. 研究成果（○）と課題（●）

- いのちの教育・性教育講話については、本校の母親委員の方にも参加いただいた。参加者の委員の方からは、「いのちの尊重という観点から、性・性差・妊娠に関わることを専門的に学べる今の生徒たちは幸せだ。」という声が寄せられた。
- 親子人権研修の参加者の方からは、「コロナ禍で人と人との結びつきも弱くなりつつある中で、レジリエンス(回復力、しなやかさ)の重要性を私たちに説いてくださり、これから生きていく時の生徒たちの大きな支えになると感じた」という感想が寄せられた。
- はじめてのオンラインでの講演会となり、各会場へのセッティングなどに不具合があった。音声が届きにくい会場については、途中から別会場の空いている席に入ってもらうなど工夫して実施した。また、内容が分かりにくい部分については、プリントを作成して補足した。
- 「人権の花」の植栽では、当日小雨であったが、人権擁護委員の方々と協力して植えることができた。その後、水かけ当番なども継続的に行い、夏から秋にかけて、美しい花々による環境美化につながられた。

<参考資料>



いのちの教育・性教育講話として実施した  
井上聡子先生による講話



ZOOM を活用して実施した「親子人権研修」



人権擁護委員会の方に来校いただき実施した  
「人権の花」の植栽活動



年間2回、小学校に中学生が訪問して実施  
している小中あいさつ運動



小中合同授業研究会として実施した  
「いじめ」を扱った1年生の道徳の授業

本のタイトル 著者名	印象に残ったこと
 名前	
今後に生かしたいこと	皆さんにお勧めの本

職員の研修会の際に利用したシート